

## 併設型中高一貫教育校の教育課程編成および高校での学級編成

中高一貫教育校の教育課程編成方法の概要を踏まえ、福井県における併設型中高一貫教育校において、どのような教育課程を編成すればよいか等を検討する。

また、併設型中高一貫教育校の特色である、中学から進級する生徒と、高校から入学する生徒の融合の在り方について検討する。

### 1 併設型中高一貫教育校の教育課程編成について

#### (1) 進度優先型

中1	中2	中3	高1	高2	高3
中学校教育課程			高等学校教育課程		応用・演習

中高一貫教育の柱を進路の実現と捉え、進度を優先した学習を進めていくパターン

##### ○メリット

中学校で高校段階の教育課程を先取りするため、高校後半で応用的な学習や演習が可能

##### ●デメリット

深く幅広い教養を身につける教養主義の実現、内進生と外進生の融合に課題

#### (2) スパイラル型

中1	中2	中3	高1	高2	高3
中学校教育課程	発展学習		高等学校教育課程	発展学習	

「ゆとり」を反復学習に利用しつつ、高校や大学レベルの高度な内容も取り扱うパターン

##### ○メリット

「ゆとり」を生かした調べ学習や実験・実習・体験等により、高いレベルの理解に到達  
高校での内進生と外進生の融合が容易

##### ●デメリット

進度は必ずしも速くないため、高校後半で応用的な学習や演習がしにくい

#### (3) 体系学習重視型

中1	中2	中3	高1	高2	高3
6年間全体を見通した中学教育課程・高教育課程の再構成					

6年間の学習全体を見通し、中学と高校の教育課程を再構成するパターン

